



男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部・fifty-fifty実現本部・ダイバーシティ推進センター

2025年度（令和7年度）男女共同参画推進活動



奈良女子大学が代表機関として令和元年度から6年間実施した文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」は、今年3月初旬に事後評価結果が公表され、総合評価「A」をいただきました。とりわけ、「訪問型病児・病後児保育システム」は、リスク管理を徹底し、他機関へ展開した先進的な取組として高く評価されました。また、「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」は、広域的な連携体制へと発展し、女性活躍支援の基盤として機能しています。これらの成果は、ダイバーシティ推進センター連携機関をはじめ、事業に関わってくださった多くの皆様のご協力によるものです。ここに心より御礼申し上げます。

現在、本学ではこれらの基盤をさらに発展させながら、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」のもと、「奈良女みかさプログラム」を推進しています。開始から約1年半が経過し、分野や世代を越えた研究者コミュニティ「みかさカフェ」（通算16回開催）や、大学院後期課程学生を対象とした「みかさフェロウシップ」、新規採用時の女性教員スタートアップ支援など、多様な研究支援が着実に広がりを見せ、大学内を活性化させています。

研究支援の面では、大型共同研究支援への応募が活発で、萌芽的な研究が発展して大型外部資金の創出へとつながることを期待しています。上位職研究支援やトップレベル女性研究者研究推進支援においてはポストドク人材の確保に課題が見られるものの、管理職・子育て期に対応した教育研究支援員制度、国内外への研究訪問や学会参加支援、英文校閲など、広く活用されています。様々な取組を通じて、女性の管理職・上位職登用と研究活動の活性化、さらには次世代研究者の育成を同時に推進しています。

また、研究者の歩みを止めないための「ならっこ子育て支援」に加え、「子の出張帯同費用の支給に関する取扱い」を新たに制定し、令和7年9月から運用を開始しました。これにより、子育てと研究活動を両立しながら国内外で研究に取り組める環境を、制度面から一層充実させました。

さらに、女性教員比率に関する高い数値目標の達成に向けて、fifty-fifty実現本部が人事課と連携し、教員組織の最高機関である研究院会議において「ダイバーシティ推進のための人事検討」を提言してきました。学長のリーダーシップのもと、全学的な人事計画の策定が進んでいます。今後は、優秀な女性研究者の上位職登用を促進するため、「奈良女みかさプログラム」による前倒し昇任制度の導入も計画しています。

共催した理工系女性人材育成に関する連携シンポジウムにおいて、お茶の水女子大学と日本女子大学とともに女子大学における使命をディスカッションする貴重な機会を得ました。学生のロールモデルとなるどの世代の女性研究者にとっても、伸びやかに力を発揮できる研究環境の実現を本学の重要な使命として位置づけ、これまでの取組の成果を基盤として、男女fifty-fiftyの実現に向けて努力を重ねてまいります。最後に、学内の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。また、男女共同参画推進機構の運営にご尽力いただいている多くの教職員の皆様にも、あわせて御礼申し上げます。

2026年3月

奈良女子大学副学長（男女共同参画担当）・男女共同参画推進機構長

星野 聡子

男女 fifty-fifty の実現に向けた、女性リーダー育成拠点の挑戦

2024年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」（事業期間2024～2029年度）の採択に伴い、これまでの事業により整備した研究環境を基盤に、大学運営における男女「50:50」の先駆的モデルとなる取組を進めています。



「奈良女みかさプログラム」みがく・かがやく・さきほこる

これまでの事業により整備した研究環境を基盤に、女性研究者のライフコースの歩みに沿った総合的な支援を通じて、研究力向上を図り、女性管理職・上位職の育成・輩出を推進します。女性研究者の大学院進学から上位職までの道筋を整備し、学内の女性教員が女子学生の身近なロールモデルとなり、女性リーダー育成につながる好循環を構築します。

女性研究者の歩みを奈良女子大学から眺望できる三笠山登山に重ね、歩みを止めることなく連続する三つの山を確実に登っていく姿になぞらえて「奈良女みかさプログラム」と名付けました。

『みがく』 女性研究者裾野拡大加速プロジェクト 博士後期課程学生のための支援
『かがやく』 女性研究者研究力向上加速プロジェクト 若手・中堅女性研究者のための支援
『さきほこる』 女性上位職・管理職登用加速プロジェクト 上位職（教授・准教授）のための支援

～本事業の5つの特徴～

1. 段階的にP Iへの道を示すことにより、意欲ある若手研究者の採用を促進
2. トップレベル女性研究者の大型外部資金獲得支援
3. 大型共同研究を統括できる女性リーダーの育成
4. 前倒し昇任を含む、意欲と能力のある女性教員の積極的な上位職、管理職への登用支援
5. 女性研究者コミュニティ「みかさカフェ」によるネットワーク構築とロールモデルの提示

2025年度「奈良女みかさプログラム」の取組

◆『みがく』ための支援－博士後期課程学生のための支援

●女性研究者コミュニティ「みかさカフェ」11回開催※

博士後期課程進学者を継続的に増やし、若手女性研究者育成のための支援を目的として、本学の女子学生・女性研究者からなる全学的な「女性研究者コミュニティ」を形成して交流を図る。

●「みかさフェロースhip」7件採択（応募15件）

本学が先行実施している「SGC-NEXUSプログラム」とは異なった観点から支援する制度として「みかさフェロースhip」を構築し、博士後期課程学生に研究費を支給する。

◆『かがやく』ための支援－若手・中堅女性研究者のための支援

●大型共同研究支援 1件採択（応募4件）

女性教員が研究統括者として実施する共同研究に対して、大型の研究費支援を行う。

●国内・国外訪問研究支援 2件採択（応募3件）

外部資金獲得につながる国内外の第一線の研究者との共同研究参加に係る旅費・滞在費の助成および女性研究者が不在となる期間に講義・実習を代行する非常勤講師を配置する。

●新規採用女性教員スタートアップ支援 6件採択（応募6件）

新規に採用された女性研究者に研究費を支援し、研究環境をいち早く整備する。

●トップレベル女性研究者研究推進支援 2件採択（応募3件）

上位職（教授・准教授）に就いているトップレベルの研究力をもつ女性教員に、研究費の支援とポストドクまたはRAを配置して、研究を推進する予算と時間の確保を図る。

◆『さきほこる』ための支援－上位職(教授・准教授)のための支援

●上位職研究支援 継続1件、新規1件採択（応募1件）

上位職（教授・准教授）の女性教員にポストドクまたはRAを配置し、研究時間の確保を図る。

●女性教員昇任支援 1件採択（応募1件）

昇任した女性教員に研究費を支援。女性教員の昇任を推進し、女性研究者等の研究環境整備を図る。

●教育研究支援員制度<女性リーダー育成型> 女性管理職の利用5名、ライフイベントによる利用14名

補助事業の採択に伴い、従来から行っているライフイベント（出産・育児、介護、病気・怪我等）中の教員の教育・研究を支援するため博士課程修士や大学院生を支援員として配置する制度を拡大し、あらたに管理職について女性教員にも教育研究支援員を配置する。

※2025年度「みかさカフェ」（本学学生と女性研究者のコミュニティ）の取組

- ◆ 5月7日 「大型共同研究支援」中間報告1件、大学院生と研究者の交流（参加25名）
- ◆ 6月4日 「大型共同研究支援」中間報告1件、女性研究者のWLBを語ろう（参加36名）
- ◆ 7月2日 R6年度みかさフェローシップ成果報告（3名）、女性研究者のWLBを語ろう
- ◆ 8月6日 みかさカフェ×SGC-NEXUS SGC-NEXUSとみかさフェローシップ受給生の研究紹介（10名）、グループトーク（参加者全体41名）
- ◆ 9月3日 SGC-NEXUS支援修了者（R7年度9月末）報告（3名）、「研究が好き」拡大戦略会議（参加27名）
- ◆ 10月8日 R6年度みかさフェローシップ成果報告（博士課程後期2名）、研究仲間を増やすための意見交換（参加13名）
- ◆ 11月5日 R6年度みかさプログラム「大型共同研究支援」成果報告2件、情報交換の場（参加18名）
- ◆ 12月3日 博・学・カフェ最終日 ポスターセッション（ポスター25点出展）（参加者39名）
- ◆ 1月7日 R6年度みかさプログラム成果報告「トップレベル若手・中堅女性研究者特別支援」1件、「大型共同研究支援」1件、博・学・カフェポスターセッション授賞式（参加者27名）
- ◆ 2月4日 R6年度みかさプログラム成果報告「トップレベル若手・中堅女性研究者特別支援」2件、交流たいむ「申請書作成のまつわるあれこれ」（参加者13名）
- ◆ 3月4日 R6年度みかさプログラム成果報告「トップレベル若手・中堅女性研究者特別支援」1件、「大型共同研究支援」1件（参加者16名）

◆研究力向上のためのセミナー 「大学と社会をつなぐ生成AI活用講座」

講師に株式会社プロアシストを迎え、2026年3月11日第1回「生成AIの可能性を知る-日常・研究・企業事例で学ぶ活用の全体像」、3月16日第2回「生成AIを正しく使う-ガイドライン策定と実習で学ぶ実践編」を開催した。（オンライン参加者計42名）

テーマ別シンポジウム

奈良女子大学理工系女性人材育成に関する連携シンポジウム 「理工系女性人材育成の過去・現在・未来」（共催）

2025年10月18日（土）奈良女子大学講堂 10:00～16:30（対面・オンライン同時開催）

- 開会挨拶・趣旨説明 酒井 敦（奈良女子大学 理学部長）
- 基調講演Ⅰ 「組織戦略としての女性リーダー育成 -奈良女子大学への期待」
酒向 里枝 氏（（一社）日本経済団体連合 会教育・自然保護本部長）
- 基調講演Ⅱ 「理工系学部の入試における女子枠の導入」
野村 淳子 氏（東京科学大学マネジメント教授）
- 講演 「奈良女子大学・お茶の水女子大学・日本女子大学における理工系女性育成の歴史と現状」
星野 聡子（奈良女子大学副学長、男女共同参画推進機構長）
加藤 美砂子 氏（お茶の水女子大学理事・副学長）
永田 典子 氏（日本女子大学副学長）
- メッセージⅠ 「奈良女子大学卒業生からのメッセージ」
企業関係 : 株式会社デンソー執行幹部先端技術研究所長 伊藤 みほ 氏
中央省庁関係 : 渡辺 その子 氏（宇宙航空研究開発機構（JAXA）副理事長）
教育研究機関関係 : 佐々木 成江 氏（東北大学DEI推進センター副センター長）
- 報告 「奈良女子大学在学生・卒業生・就職先企業に対するアンケート調査結果」
久保 博子（奈良女子大学 工学部長）
- メッセージⅡ 「理工系女性に寄せる期待」
ソニーグループ株式会社 技術人事部 統括部長 山菅 裕之 氏
- パネルディスカッション
「理系女性人材育成のこれから 初等中等教育、高等教育、社会・企業、女性人材育成の連携に向けて」

オンラインを含め学内外から約150名の参加があった。理工系女性人材に対する社会的要請と入試における女子枠導入に関する基調講演があり、その後、奈良女子大学、お茶の水女子大学、日本女子大学のそれぞれの副学長により女子大学理工系学部における人材育成の歴史と現状が紹介された。また各界で活躍する奈良女子大学卒業生に登壇いただき、理工系女性人材に寄せる期待と要望について講演が行われた。パネルディスカッションでは、すべての講演者が登壇し、今後の日本における理工系女性人材育成の方向性や関係者間の連携の重要性について、活発な議論が展開された。



【お問い合わせ】 奈良女子大学男女共同参画推進機構

✉ mikasa@cc.nara-wu.ac.jp

URL : <https://mikasa.nara-wu.ac.jp/>

ダイバーシティ推進センター 後継事業

以下の取組は、2024年度までダイバーシティ推進センターの取組として行われていたが、2025年度からは「女性リーダー育成型」事業の一環として実施している。優秀な女性リーダーを育成するために、基盤となる環境整備である。

地域との連携推進

本事業では地域との連携を推進してきたが、本年度も特に地方自治体との連携強化に向けて積極的な活動を行った。

1. 奈良市子ども未来部子ども育成課、奈良市ファミリー・サポート・センターと連携に向けて打ち合わせを行った (6/13)
2. 本学のサポーター講習の中で「子どもの急な体調不良への対応」の講習を、奈良市ファミリー・サポート・センターと共催で開催した (2/3)
また、本学主催のサポーター対象のフォローアップ講習「子どもの食物アレルギー」(9/6)、「防災講座」(10/15)の受講対象を奈良市ファミリー・サポート・センターの援助会員に加え、一般にも広げて開催した
3. 奈良市子ども育成課、奈良市ファミリー・サポート・センター、奈良女子大学共催で3回目となる「子育て応援フェア」を開催した (10/6～10/10 市庁舎1Fにて)



R7年度「子育て応援フェア」の展示 本学のブース(右)

「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築

1. 病児・病後児保育WG会議を開催した (第33回4/30、第34回7/16、第35回11/12、第36回2/4、小児科医、看護師、保育士、男女共同参画推進機構特任教授・客員教授、ダイバーシティ・コーディネーターらによるオンライン会議)
2. 病児・病後児の託児に関連して、利用者登録説明会 (4/18、5/22、7/16、10/29、12/22)、サポーター登録説明会 (5/29、6/6)、利用者・サポーターの病児・病後児保育支援登録会を開催した (4/16、1/21、2/5)
3. 病児・病後児保育支援のための講習を行った (1/28、2/3、2/14)、フォローアップ講習として子どもの食物アレルギーに関する講習 (9/6) や防災講座 (10/15) を実施した
4. 新規利用者の病児・病後児保育支援開始に向けてかかりつけ医の訪問・面談を行った (11/14、1/23)
5. 熊本大学との連携推進として、オンラインによる打ち合わせを行った (11/7)
また、熊本大学ダイバーシティ推進室からフォローアップ講習にオンライン参加があり (9/6)、対面で通常託児支援講習の見学もあった (11/29)

「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」参画機関 第6回・第7回意見交換会

2025年度には新たに1機関が参画し、本ネットワークの参画機関は41機関 (2026年1月末現在) となった。本ネットワークは、事業の連携機関及び協力機関、そして関西圏の女子大学をはじめ、大学・高専・企業・団体から成っている (内訳: 女子大学13機関、その他の大学・高専5機関、企業・団体23機関)。これまでに5回の意見交換会を開催してきたが、2025年度はオンラインと対面で2回の意見交換会を開催した (6月19日、11月20日)。第6回は、大塚製薬株式会社、株式会社プロアシスト、奈良県立医科大学による参画機関紹介、「「くるみん」「えるぼし」取得とそのメリット」と題して、毎日新聞社と佐藤薬品工業株式会社による話題提供があった。第7回は、大塚製薬株式会社による「大塚製薬のD&I推進について」と題した話題提供があった。話題提供の後、参加者によるフリーディスカッションを行った。終了後のアンケートでは、「具体的な取組内容だけでなく、その背景や苦労話などを率直に聞くことができたことがよかった」「もっと時間をとっていただいてお話を聞きたかった」「取組の現状や課題がよく理解できた。グループディスカッションもテーマに沿って各機関の状況などを話し合うことができ有意義な時間だった」といった意見が多く好評であった。第6回(オンライン): 参画機関12機関、参加人数30名、第7回(対面とオンライン併用): 参画機関12機関、参加人数29名(会場19名、オンライン10名)



ダイバーシティ推進センター



奈良から 関西から 女性研究者の支援を牽引 ～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～

2019年度に本学は代表機関として、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社（以下「共同実施機関」）との連携のもとで、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。6年間の実施期間中に様々な取組を実施し、地域における女性研究者の活躍推進を牽引してきました。「ダイバーシティ推進センター」を設置し事業の活動拠点としてきました。

2025年度「ダイバーシティ推進センター」の活動

事業期間終了後も代表機関・共同実施機関では独自の取組を実施するとともに、ダイバーシティ推進センター（以下 推進センター）において実務者会議を開催して、取組の進捗状況や今後のあり方について意見交換を行って情報共有を図ってきました。2025年度は事後評価の年に当たり、「事後評価のための成果報告書」を6機関連携のもとで作成し、12月に面接評価を受けました。また、2023年度-2024年度「成果報告書」を自主的に発行し、外部評価も実施しました。事業期間終了後も6機関の連携を強く維持し、今後の連携を確認することができました。

事後評価結果のご報告

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の6年間の事業の事後評価結果が公表されました。本事業の特長は、①大学・高専・企業の多様な連携機関間での協力体制を築き、共に事業を進めることができたこと、②6機関連携のもとで「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築を行い、実際に運用を開始し、他機関にも広げることができたこと、③「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」を構築し、40機関（事業終了時）の参画機関でアンケート調査や意見交換会を行って地域のダイバーシティ推進に貢献できたこと、④6機関連携で「女性管理職養成プログラム」を作成し、女性管理職の養成を進めることができたこと、などが挙げられます。

結果は、総合評価はAで、各審査項目では、目標達成度b、取組s、取組の成果a、実施体制a、実施期間終了後の取組の継続性・発展性aとなりました。審査委員からのコメントとして、特に「訪問型」病児・病後児保育システムではリスク管理等を充実させ、奈良地域の自治体や医師会、共同実施機関の企業と連携したこと、他機関に広げることができたことを高く評価していただきました。その他、「女性管理職養成プログラム」「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」も高く評価され、このネットワークを今後も広げていくことが期待されています。取組の成果や実施体制、今後の継続性・発展性についてもいずれもよく評価されました。一方、目標達成度はb評価でした。女性研究者在籍比率・採用比率は、毎年の目標値はほぼ達成できていたのですが、最終年度（令和6年度）の女性研究者在職比率や採用比率が目標値に届かず、厳しい評価となりました。今後は、更に全学において意識啓発活動等を進めていく必要があると思われます。

2023年度-2024年度「成果報告書」を発行

本事業においては、これまでに毎年または2年に1回自主的に「成果報告書」を発行して推進センターの活動を報告してきました。今回は4冊目になります。2023年度と2024年度の2年間の取組や実施体制、目標として掲げた女性研究者在職比率・採用比率等が詳しく掲載されています。この成果報告書は連携機関の構成員で共有するだけでなく、全国の関連機関にも送付しています。



外部評価を実施

2025年度には、「事後評価のための成果報告書」をもとに外部評価委員の方々より評価をいただきました。「6機関が連携してダイバーシティ研究環境実現に取り組まれていること、特に「訪問型」病児・病後児保育システムの構築については高く評価します」等のご意見をいただきました。外部評価委員の方々には、事業の開始からこれまで常に貴重なご意見をうかがうことができ、事業を進めるうえで大変参考になりました。ご協力いただいた相馬芳枝委員、稲葉カヨ委員、工藤眞由美委員、樋口友夫委員に心より感謝を申し上げます。

【お問い合わせ】 奈良女子大学ダイバーシティ推進センター

✉ diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp

URL : <https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>

男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体との連携による男女共同参画への取組などを行っています。

地域連携事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域連携事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関するさまざまなテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え、学び、広めることを目的とし、公開講座を開催してきた。今年度は昨年度に引き続き「持続可能な生活・生き方」をテーマとして、2回の公開講座を開講した。

◆ 第1回「人口最少県による『女性活躍トップランナー県』への取組」

【日時・場所】 2025年10月30日（木）15：00～16：30 オンライン開催

【講師】 山本 雅美氏（鳥取県男女協働未来創造本部長）

【参加者】 102名（オンライン配信33名・オンデマンド配信69名）

講演ではまず、鳥取県で今年から創設された男女協働未来創造本部について紹介された。鳥取県は全国最少の県人口であり、年齢構成や高校・大学卒業生の県内定着状況から、大学等卒業時の県内就職率やUターン就職率の向上が課題であり、そのために男女協働未来創造本部では若者・女性が定着する地域づくりを目指されていることを説明された。



次に、鳥取県は、行政部門での都道府県ジェンダー・ギャップ指数が全国1位であり、ご自身のキャリアパスを含めて鳥取県行政職員の管理職に女性が積極登用されていることを示され、「働きづらさ」や「暮らしやすさ」の根源にある性別によるアンコンシャス・バイアスの気づきとその行動変容を促す県民運動に取り組んでいることが説明された。

一方で、鳥取県男女共同参画意識調査結果によると、「学校教育」以外の「職場」「家庭生活」ほかの多くの分野で男女の平等感は依然として低く、女性参画が進まない理由には、根底にある性別役割分担意識の解消が必要であるとの見解を提示された。男女の違いによるモヤモヤについて意見交換を行う「話彩や」活動についても紹介され、性別に関わらず意欲や能力に応じてあらゆる分野で活躍できる社会を構築するための鳥取県の対策を説明された。

ズームを利用した質疑応答では複数の質問が寄せられ、鳥取県の男女共同参画センターの利用状況や男性の育児休業取得期間などについて丁寧な回答をいただいた。

◆ 第2回「Willからつくるわたしの生き方・働き方～女だから、男だからを超えて～」

【日時・場所】 2025年12月5日（金）15：00～16：30 オンライン開催

【講師】 小安 美和氏（株式会社Will Lab代表取締役）

【参加者】 140名（オンライン配信49名・オンデマンド配信91名）

講演では、内閣府や奈良県などでジェンダー・ギャップをめぐる問題に取り組んできた小安氏から、一人ひとりが「自らの「Will（ありたい姿）」を追求できる社会の実現に向けた事例紹介と提言がなされた。まずは、若い女性の流出という問題を抱える地域の施策として、移住補助や婚活・子育て支援だけでは不十分で、男性中心の意思決定や職場でのハラスメントなど「地方の変わらなさ」に根本的な課題があるとの指摘がなされた。また、世代間の価値観の違いも変化を阻む壁であり、若い世代には、男女とも仕事と家庭の両立を望む傾向が強いことから、世代間の対話による理解促進が重要であると述べられた。とくに職場改革においては、採用・配置・育成・登用の見直しと、そこに潜むアンコンシャス・バイアスの自覚が不可欠であり、社会規範そのものを問い直す必要性が示された。さらにジェンダー平等一位のアイスランドを例に、制度だけでなく、人権意識や女性の連帯といった「水面下の支え」こそ、多様性と調和を両立させる鍵になるとの提言もなされた。



質疑応答では、出産後のワークライフバランスやジェンダー平等へ向けた課題設定の方法に関する問題が提起され、多様な立場の当事者がいかに課題を共有するか、また、自らの幸せの形と向き合い、誰を巻き込むのかを考えることが重要であるとの指摘がなされた。

関西圏の女子大学の連携推進活動

女性研究者の環境整備や研究力向上と次代の優秀な女性研究者の育成のため、関西圏女子大学間連携による女性研究者共同研究支援を目指して、2014年に関西圏の5女子大学有志によりワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキンググループ会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。

2025年度は以下の4回のワーキンググループ会議が開催された。

2025年度 ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	会場	主な議題
第60回	6月30日	オンライン開催	第14回異分野交流会開催の打ち合わせ
第61回	10月29日	オンライン開催	第14回異分野交流会について（発表演題確認と役割分担）
第62回	2月8日	奈良女子大学	第14回異分野交流会について（開催とその反省） 第15回異分野交流会の開催について
第63回	3月13日	オンライン開催	令和8年度異分野交流共同研究シーズ発掘支援経費の採択について 第15回異分野交流会開催について

異分野交流会の開催

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究が実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催し、それ以後毎年開催してきた。今年度は第14回異分野交流会を奈良女子大学で開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。

◆第14回異分野交流会

日時： 2026年2月8日（日）13：00～17：00

会場： 奈良女子大学コラボレーションセンター3階 Z306室

テーマ： 「みつける」「つくる」「ふかめる」

参加者： 37名

【プログラム】

- 13：00 開会 あいさつ 奈良女子大学学長 高田将志
- 13：05 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）
- 15：40 グループワーク
- 16：45 グループワークのまとめと講評
- 17：00 閉会

【発表者と演題】

1. 「『蜻蛉日記』の物語—平安時代の女性の宗教と生活—」
辻 美夏（武庫川女子大学）
2. 「李賀詩歌研究—季節と色彩の表現を中心に—」
中西ひなた（武庫川女子大学）※当日欠席
3. 「“心里”のメタファー表現」
李 曉倩（奈良女子大学）
4. 「手段を表す「～を通じて」と「～を通して」の違い」
池谷知子・小池祐生・細見野乃（神戸松蔭大学）
5. 「『幸いです』の意味と用法の変化—国会会議録分析から考える—」
高橋佳奈（神戸松蔭大学）
6. 「明石市二見町における二拍名詞アクセント」
辻 朋佳（神戸松蔭大学）
7. 「小学校外国語科における児童のアルファベット習得についてふかめる
～継続研究の結果報告～」
油布茂子（奈良教育大学）
8. 「アートと海洋教育—奈良の貝ボタンを用いて—」
大畑幸恵（武庫川女子大学）
9. 「兵庫県丹波市をフィールドとする異分野協働による持続可能な地域づくり」
老家初果・藤井善仁・大山紀子・横内康平（武庫川女子大学）
藤平眞紀子（奈良女子大学）、縄手望未（奈良女子大学修士修了）
10. 「コーヒーマと緑茶の効果：脳と心臓そして寿命を守る飲料習慣とは？」
田中元隆（奈良教育大学）
11. 「BC（バクテリアセルロース）を基材とした弾性素材の創成」
日置理恵（武庫川女子大学）



第14回 関西圏女子大学連携プロジェクト 異分野交流会

「みつける」「つくる」「ふかめる」

奈良女子大学・神戸松蔭大学・武庫川女子大学の3大学連携により「第14回異分野交流会」を開催します。この機会には、各分野の研究者が異分野の研究者と協働することや共同研究を立ち上げることや、協働の発展・計画策定などを支援し、研究環境の整備とダイバーシティ化を推進します。

プログラム

13:00 開会 あいさつ 高田将志 奈良女子大学学長

13:05 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）

15:40 グループワーク

16:45 グループワークのまとめと講評

17:00 閉会

発表者と演題

1. 「『蜻蛉日記』の物語—平安時代の女性の宗教と生活—」
辻 美夏（武庫川女子大学）
2. 「李賀詩歌研究—季節と色彩の表現を中心に—」
中西ひなた（武庫川女子大学）※当日欠席
3. 「“心里”のメタファー表現」
李 曉倩（奈良女子大学）
4. 「手段を表す「～を通じて」と「～を通して」の違い」
池谷知子・小池祐生・細見野乃（神戸松蔭大学）
5. 「『幸いです』の意味と用法の変化—国会会議録分析から考える—」
高橋佳奈（神戸松蔭大学）
6. 「明石市二見町における二拍名詞アクセント」
辻 朋佳（神戸松蔭大学）
7. 「小学校外国語科における児童のアルファベット習得についてふかめる
～継続研究の結果報告～」
油布茂子（奈良教育大学）
8. 「アートと海洋教育—奈良の貝ボタンを用いて—」
大畑幸恵（武庫川女子大学）
9. 「兵庫県丹波市をフィールドとする異分野協働による持続可能な地域づくり」
老家初果・藤井善仁・大山紀子・横内康平（武庫川女子大学）
藤平眞紀子（奈良女子大学）、縄手望未（奈良女子大学修士修了）
10. 「コーヒーマと緑茶の効果：脳と心臓そして寿命を守る飲料習慣とは？」
田中元隆（奈良教育大学）
11. 「BC（バクテリアセルロース）を基材とした弾性素材の創成」
日置理恵（武庫川女子大学）

2026年 2月8日（日） 奈良女子大学
13:00～17:00
〒630-8526 奈良県生駒郡斑鳩町 奈良女子大学
コラボレーションセンター3階 Z306室

参加費 無料

定員 60名（12名以上申込）

申込先 奈良女子大学 学務課 企画・広報課 企画・広報係
〒630-8526 奈良県生駒郡斑鳩町 奈良女子大学 学務課 企画・広報課 企画・広報係
TEL 0742-20-3204 FAX 0742-20-3205 E-MAIL somusomu@jimuu.ac.jp

男女共同参画推進本部の活動についての問い合わせ先

Tel 0742-20-3204 e-mail somusomu@jimuu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

「女性研究者支援モデル育成事業」(2006～2008年度)「女性研究者養成システム改革加速事業」(2010～2014年度)において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を、採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。2019年度にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業に、2024年度にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)事業に採択され、ダイバーシティ推進センターと共にさまざまな取組を進めています。

教育研究支援員制度

教育研究支援員制度は、出産・育児・看護・介護に関わる教員に支援員を配置する仕組みである。令和2年1月より、怪我や病気が理由の場合においても、教育研究支援員の配置ができるようになった。また、令和6年10月「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」に採択され、女性教員で、育児の場合は子どもの年齢が小学校6年生までに拡大され、あらたに管理職にある女性教員に教育研究支援員が配置できるようになった。

2025年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月～3月
利用者数	21名	19名
支援員実人数	38名	29名

子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声に応じて、「ならっこネット」を運営し、18年目を迎えた。専属(共助)サポーターによる支援を行う「ならっこコース」と、専属サポーターのいない「プチならっこコース」を利用者が選択することができる。「ならっこコース」では、Webシステム「Webならっこ」が利用でき、効率よく依頼できる。また、安全で安心な支援を実施するために、各種サポーター講習や大学が保険に加入し、本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」、ポストドクターには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されており、小学校6年生までのお子様をお持ちの方がならっこネットを利用した際の託児料を支援している。

2026年2月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は65名(支援される子どもの数81名)、登録サポーター数は67名である。2月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は292件で、うち269件が実施された。また、ならっこ病児保育は4件の支援が実施された。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行うもので、運用15年目を迎えた。「集団託児」のほか、マンツーマンの「個別託児」が選べ、利便性を高めている。今年度2月末時点で「ならっこイベント」の依頼件数は44件、うち41件実施している。

今年度も多くの方に託児をご利用いただき、子育て支援を必要とされている方が多いことを改めて実感した。保育園の卒園から小学校入学までの期間や、短縮授業の期間にお子さまの預け先に悩まれる方は毎年おられる。学内にこのような子育て支援があることで、「子どもの預け先に悩む時間が減り、学業や仕事に専念できる環境が整っていて本当に助かる」というお声をよくいただく。また、夏休みなどの長期休暇においても託児の利用は多く、異年齢のお子さま同士が仲良く遊ぶ姿が見られる。さらに、入学前の大学院生から託児利用に関する問い合わせもあり、子育て支援の充実を知ったうえで「ここしかない！」と奈良女子大学を進学先選ばれた学生利用者の方もおられる。

サポーター講習

子育て支援システムを安全、安心に運営するためには、信頼のおけるサポーターの養成が欠かせない。サポーターに自信をもって支援活動を行っていただけるよう、必要な知識とスキルを十分に学ぶことのできるサポーター講習を実施することが必須である。

本年度は、健康時の支援を行うための基礎知識やスキルの習得を目的とした『通常託児支援のための講習』(「サポーター登録説明会」を含む6講座・12時間)、病児・病後児保育支援に必要な子どもの病気に関する知識や看護スキルを学ぶ『病児・病後児保育支援のための講習』(5講座・10時間)を実施した。

また、子育て支援に関する知識や技術を更に広く深く学ぶための『フォローアップ講習』は、下記の2講座を公開講座として開催した。

①【公開講座】子どもの食物アレルギー

—症状出現時の対応— (9/6)

講師：南部光彦氏(小児科医)

②【公開講座】防災講座

—子どもと自分を守るために— (10/15)

講師：中嶋壽美恵氏(日本赤十字社奈良県支部 防災教育事業指導者)

公開講座には子育て支援に関心のある一般の方も多く参加され、好評を得た。登録サポーターには、会場での対面受講のほか、後日各講座のオンデマンド配信を行った。



ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

2名のカウンセラー(産婦人科医師・社会福祉士)が、女性特有のこころとからだの悩み相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護(高齢者・障がい者)福祉に関する相談等、健やかにワーク・ライフ・バランスを保てるように学生・教職員からの相談に対応している。相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更、また、2019年10月より奈良工業高等専門学校及び武庫川女子大学、2021年4月よりプロアシスト社、佐藤薬品工業社、帝人フロンティア社も共同利用ができるようになり、ご相談に来られている。

コロナ禍で開始したオンラインやメールによる相談対応について、相談者の利便性を考え今年度も継続している。また授業時間・終業時間後に来室しやすいよう、開室時間を15時～18時としている。

「ミニ講座」では、「介護保険・障がい者福祉制度についての知識や介護予防など役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「自分のこころの健康を守る」をテーマに、全6回すべてをオンデマンドにて開催し、のべ246名のお申込み(学内178名・共同実施機関68名)があった。

情報の発信

今年度(2月末現在)は、子育て支援システム利用者向けメールマガジン「ならっこネット通信」を2回、子育て支援サポーター向けメールマガジン「ならっこニュース」を9回配信、ワークライフバランス支援相談室チラシを2回発行した。

ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児支援室であり、たくさんの絵本やおもちゃ、100インチスクリーンで映画を観たり、お昼寝をすることもでき、長時間でもお子さまが過ごしやすい部屋となっている。利用できるのは、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や子育て支援システムに登録されている利用者とそのご家族、お子様を連れて来学された方などである。

2月末現在で86件の予約があり、うち73件の利用があった。

利用者のご家族とお子さまがゆっくり過ごされたり、夏休みなどの長期休暇には、ほぼ毎日のように利用される方もおられ、複数のお子さまが同時に利用される際には、異年齢での交流が生まれ、とても賑やかで温かい光景が見られる。一人っ子の利用者の方からは、「とても良い経験をさせてもらっている」と喜ばれることも多い。

女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性研究者にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生・ポストドクターにも配信している。2025年度(2月末現在)は、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、講演会案内等、47件の情報配信を行った。

研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業では、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速事業」(2011年度より科学技術人材育成費補助金として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めてきた。2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を、理工農系に医・保健分野も加えて拡大し、2020年度からは、さらに支援対象を全ての分野へ拡大し、対象者も、常勤職員(助教・専任講師・准教授・教授)だけではなく特任教員、博士研究員からの応募を可能とした。

2025年度研究活動支援事業の活動実績

◆研究スキルアップ経費支援

女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

2025年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	工学系研究者	人文科学系研究者	保健系研究者
6件	2件	2件	1件

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先:

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/keihishien/>

e-mail : j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax : 0742-20-3344

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

e-mail : shien@cc.nara-wu.ac.jp

キャリア開発支援本部

2025年度も、次世代研究者挑戦的研究プログラム（新SPRING）「SGC-NEXUS」において、博士後期課程学生の支援事業を推進しました。昨年度に引き続き、NEXUS「つながり」をコンセプトに、キャリア開発支援本部においては横のつながりと縦のつながりを促進する取組みを展開しました。研究インターンシップ、自己分析セミナー、進路に関する相談等、産学の連携に関する活動などを行いました。支援についてはひとりひとりの学生の声に耳を傾け、研究で培われた転用可能な能力（トランスファラブルスキル）をキャリアへ結びました。

博士後期課程学生への給付型支援制度（次世代研究者育成プログラムSGC-NEXUS）の取組み支援状況

新たな補助事業の支援対象者の募集は3月と9月に実施し、HPや大学院生向けメールマガジン等で周知した。2025年度春入学者が7人、秋入学者1人、学年不問枠（欠員募集）5人の支援を新たに開始した。月額20万円の生活費と年間上限28万円の研究費を支援した。2025年度の支援対象者は、3月末時点で31人となった。

各種セミナー等のイベント

キャリアの選択肢をひろげるために：

博士号を取得した後企業や大学等で活躍している博士人材や本学教員から、現在に至るまでのキャリア経歴や博士号の価値、グローバルな活躍などを気軽に聞くことができる場を設けた。



産学対話@村田製作所

10月に村田製作所に博士学生6名が訪問し、研究交流「産学対話」を開催した。学生の発表に対し、企業の方々から様々な質問が飛び交った。終了後は展示室を見学し、学生たちは有意義な時間を過ごした。



企業と大学の交流の場の提供：

2024年に加入したコンソーシアム「京都クオリアフォーラム」の企業と博士の交流イベントを、本学を会場として実施した。学生の広い見識と実現力をアップする機会となった。

研究ポスター展「博・学・カフェ」

11月から12月にかけて博士後期課程学生を中心とする研究ポスター展「博・学・カフェ」を開催した。ポスター出展者は25人。12月のポスター発表には法人理事長、学長ら多くの教員、学生が参加し会場は熱気に包まれた。投票による研究科長賞や学生のコメント等で選定された受賞者が決定した。



国際的活躍のために：

8月に「Nara Women's University Summer Program on Mathematical Modeling 2025」のために来学したインドネシア、ジョグジャカルタ州立大学やベトナム、韓国などの学生17名と、博士後期課程学生がプレゼンとトークを楽しむ「英語で研究交流 on SPMM2025」を実施した。



SGC-NEXUSによる海外派遣とインターンシップ支援：

受給者を対象とした海外派遣では、学会参加や発表、調査などの目的で、渡航費、滞在費、調査活動に必要な経費が支援された。支援実績はアメリカ、リトアニア、フランス、ドイツ・ベルギー・イギリス、ブラジル、ネパール、オーストラリア、台湾が各1人、韓国が2人、ベトナムが3人であった。

また、研究インターンシップには、東レ(株)、三菱電機(株)、(株)リコー、(株)村田製作所、(公財)高輝度光科学研究センター(JASRI)に各1人、(国研)産業技術総合研究所に2人が臨んだ。

あなたの研究を見つめ直す 図解診断ワークショップ

異分野の人にもわかりやすく伝えられる図解を学ぶワークショップを外部講師を招いて、1月に実施した。



授業等、学習支援 博士後期課程

●自己分析・ワークスタイルセミナーA

ワークシートを用いてコーディネーターとの個別セッションを実施する自己分析と、学生自身がセミナーを企画する取組を並行して行った。

セミナー企画は自分のキャリア形成にプラスの影響を与える講師を選定して企画書を作成するものである。6人が受講した。

●キャリアセミナーA

日常の研究活動等の中で、トランスファラブルスキル（転用可能な能力）についての意識化を促し、選択したスキルの自己評価と他者からのコメントを得る機会を提供した。受講期間中のキャリアに関する活動（インターンシップや、セミナー企画実施、キャリアインタビュー）を含むプレゼンを行った。受講者は3人。

●論文執筆入門セミナー

SGC-NEXUS運営チームの遊佐・山内両教授が、論文の具体的な書き方やポイントを指導する5回のセミナーを実施した。毎回の課題に取り組むことで、標準的な形式の論文の骨組みを習得することを目的とした。博士後期課程6人、博士前期課程10人、学部生1人が受講した。



学外機関との産学連携

●アカリクラウンジ・プチ設置

大学院生向けのキャリア開発支援及び就職支援サービスの充実を目的として、2024年10月に株式会社アカリクと連携と協力に関する協定を締結した。2025年3月にはキャリア開発支援本部の相談室(G414)に「アカリクラウンジ・プチ」として、(株)アカリクの提供によるラックを設置し、学生がコーヒーなどを利用できるように整備した。学生からは、落ち着いて就職活動の相談ができると好評である。

アカリクラウンジ プチ



C-ENGINE（産学協働イノベーション人材育成協議会）に関連する事業

2025年度の研究インターンシップの実施状況は下表のとおりである。

4月にはキャリア開発支援本部の説明会において、前年にインターンシップに参加した学生が体験発表をした。また、7月にオンラインで実施された「CHIの交流会」では博士後期課程学生の研究発表が中心であるが、本学からは博士前期課程1年の学生が発表を行った。10月31日には京都大学楽友会館にて開催された「産学協働イノベーション人材育成シンポジウム2025」において、博士後期課程3年の学生が研究インターンシップについて報告し研究の枠を越えて社会的課題に挑む姿勢を具体的に示すことができた。

2025年度 C-ENGINE 研究インターンシップ実績

所属	学年	インターンシップ先	実施期間	テーマ (企業報告書の記載による)
化学生物環境学専攻 (化学)	M1	東レ(株) 電子情報材料研究所 (滋賀)	8/18~9/5	MIを活用した新規有機色素探索
数物科学専攻 (数学)	M1	三菱電機(株) 先端技術総合研究所 (兵庫)	8/25~9/12	鉄道・車・移動ロボット等のモビリティ向けアプリケーションソフトウェア開発実習
化学生物環境学専攻 (化学)	M1	(株)リコー 先端技術研究所 IDPS研究センター PV開発室 (神奈川)	8/25~9/12	ペロブスカイト太陽電池デバイスの分析評価
自然科学専攻 (物理)	D1	(株)村田製作所 みなとみらいイノベーションセンター (神奈川)	11/10~12/19	数理最適化に関する研究開発業務

その他の活動

- 大学院生等のキャリア（就活）等相談、（個別対応の）自己分析セミナー
- 学術振興会特別研究員等申請書作成支援の拡充
- ドクターコース進学説明会、学振説明会、受給者向け説明会にて支援内容の説明
- 英文校閲経費支援、DCD支援(学会等交通費)
- 補助事業における受給者の研究費の執行状況調査
- メールマガジンや「ご利用ガイド」等の広報活動
- 博士前期課程学生のトランスファラブルスキルの習得を促すための取組の企画・推進

キャリア開発支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel 0742-20-3572

URL : <https://cdpd.nara-wu.ac.jp>

e-mail : career-k@cc.nara-wu.ac.jp

男女共同参画活動のアピールー自治体・他団体等との連携への取組ー

◆奈良県「なら男女共同参画週間イベント2025」に協力参加

2025年6月27日(金)～6月29日(日)に開催された「なら男女共同参画週間イベント2025」(奈良県女性センター主催)に、男女共同参画推進機構の取組に関するパネルを展示し、4月19日(土)に開催された第2回実行委員会、8月2日(土)に開催された第3回実行委員会に安田特任教授が協力参加した。

◆「日本女性会議2025橿原」に協力参加

2025年10月3日(金)～5日(日)に開催された「日本女性会議2025橿原」での分科会において「奈良で理工系女性人材を育てる」と題したシンポジウムで安田特任教授が司会を務めた。

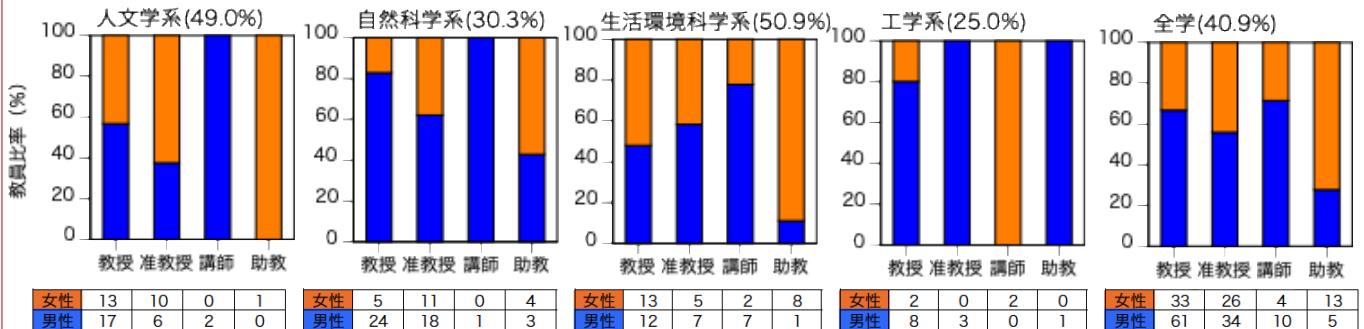
◆奈良ソントクラブ理系若手女性研究者奨励賞第7回選考と授賞式

上記の賞の選考の結果、高浪景子氏(生活環境科学系心身健康学領域准教授)を第7回受賞者に決定した。授賞式は、2025年10月20日(月)に本部管理棟応接会議室にて行われ、奈良ソントクラブ櫻井笑子会長より目録が進呈された。



奈良女子大学教員の男女別人数(2025年5月1日現在)

大学全体の女性教員比率40.9%



* 教員は学系に所属する教授・准教授・講師・助教とした。講師は専任講師である。* * 図中括弧内の数字は各学系、全学の女性教員比率を示す。

奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学の教員数は、2025年5月1日現在で186名。そのうち女性教員は76名(40.9%)である。2005年から20年間に渡る男女共同参画推進機構(男女共同参画推進室としてスタート)のリードによって女性研究者への支援体制が整備されたこともあり、女性教員比率は徐々に上昇してきた。本Newsletterが発行された2010年から2025年の推移をみると、女性教員比率は29.6%から40.9%、職階別では学部によって事情が異なるが、全体で教授19.8%から35.1%、准教授22.2%から43.3%であり、地道な改善を継続し、卓越した成果を示しつつある。

2022年6月に学内公表された「一般事業主行動計画達成のための奈良女子大学の取組方針」では、令和10年3月までに女性教員在職比率44%、自然科学系では女性教員の在職比率を35%、上位職比率を31%に向上させることとした。文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(2019～2024年度)により、女性研究者の研究力向上、研究環境改善に向けて様々な取組が実施されており、女性教員比率向上につながり、着実に成果がみられる。また、2024年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」(2024～2029年度)に採択され、これまでの取組を発展させ、さらなる努力を続けて、女性リーダー育成を推進していく。

奈良女子大学意思決定機関等における女性比率

2025年5月1日現在、学長・副学長の女性教員比率は33.3%であり、学長補佐・大学院研究科長・各学部学長・評議員からなる(学長、副学長を除く)大学の意思決定機関等における女性比率は28.6%である。いずれも国立大学の平均を大きく上回っているが、欧米各国に比べると未だ低く、理工系分野でのさらなる男女共同参画推進が求められる。大学運営における男女「50:50」を目指し、さらなる努力が望まれる。

編集・発行：奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先：奈良女子大学総務課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel : 0742-20-3204 Fax : 0742-20-3205

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

